

現代型抑うつ症候群とひきこもりを中心としたうつ病のフローサイトメトリー解析：うつ病のサブタイプと免疫細胞分布の関連を探る

松尾，敬太郎

<https://hdl.handle.net/2324/7363663>

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（医学），課程博士
バージョン：
権利関係：



氏 名： 松尾 敬太郎

論文名： 現代型抑うつ症候群とひきこもりを中心としたうつ病のフローサイトメトリー解析：うつ病のサブタイプと免疫細胞分布の関連を探る

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

目的, うつ病にはさまざまサブタイプに分類される。「現代型抑うつ症候群 (Modern-Type Depression: MTD)」は、病的なひきこもりへの入り口といえる病態である。「逆境的小児期体験 (Adverse Childhood Experiences: ACEs)」もうつ病の重要な病因である。近年、免疫の不均衡がうつ病の生物学的基盤として提唱されている。そこで我々は、末梢免疫細胞の分布がうつ病のサブタイプに関与している可能性があると仮定した。

方法, 大うつ病性障害 (Major Depressive disorders: MDD) 患者21名と健常対照者24名を対象とした。採血から得られた末梢血単核球 (PBMC) の表面抗原をフローサイトメトリーで調べた。さらに、心理評価として、うつ病の評価尺度をPatient Health Questionnaire (PHQ-9)、Beck Depression Inventory II (BDI-II)、Hamilton Rating Scales for Depression (HRSD) で評価し、うつ病の異なる表現型に関連するMTDの傾向 (Modern-Type Depression Trait Scale: TACS-22)、ひきこもりの傾向の自覚的質問票 (Hikikomori Questionnaire: HQ-25)、ACEs の評価 (Child Abuse and Trauma Scale: CATS) を実施した。

結果, MDD群はHC群に比べ有意にB細胞の割合が高かった ($p=0.032$)。MDD群では、以下の両群間に負の相関がみられた: PHQ-9とCD8 エフェクター記憶T細胞 ($r=-0.639$, $p=0.002$)、TACS-22と単球 ($r=-0.459$, $p=0.036$)、HQ-25とナチュラルキラーT細胞 ($r=-0.638$, $p=0.004$)、CATSと中間型単球 ($r=-0.594$, $p=0.009$)。

結論, 現代型抑うつ症候群の傾向、ひきこもりの傾向、ACEsの傾向などのうつ病のサブタイプは、末梢免疫細胞の特異的な分布と相関していた。この結果は、免疫学的不均衡がうつ病の多様な症状に影響を及ぼすことを示唆している。今後大規模な前向き研究による更なる検証が必要である。